

さ ん り ん し ゃ



いらっしゃい ありがとうございます

～ごっこ遊びの価値って!?!～

子どもたちの遊びの中に、「ままごと遊び」というのがあります。ちょっと前までは、私、お母さんがいい、ぼくはお父さんがいい、じゃあわたし、お姉さん。というのが定番だったような気がします。ところが、最近は、お母さん・お父さん・お兄さん・お姉さんの役どころより、わたし、ペットの犬・ネコがいいという役どころがよく見られます。「どうして、ペットなの？」尋ねると、
だって、「犬や猫は、みんなに可愛がられるから。」子どもたちはいつしか無償の愛を求めているのでしょうか!?

さて、今回は幼稚園行事として行っている、にしきえ初市「お店屋さんごっこ遊び」について見てみたいと思います。1月末に実施する行事ですが、先生方と一緒に

どんなお店を出すか、何を売なのか品物をどんなふうに準備するかなどなど、3学期が始まるとすぐに準備に取りかかりました。

先生方は、子どもたちの思いや意見を大切にしながら進めていきます。

「お店屋さんごっこをとおして、文字や数量等を理解し、売り手・買い手に実際になることで友達とや

り取りを楽しむ」というねらいを具備していると感じました。出来栄えの素晴らしいこと。ビックリです。子どものアイディアを生かし、おもちゃ売り場では、その遊び方まで紹介している。これなら、買い物に来たお客さんはよく分かるなあ。

事前の周到な準備から本番までを通して、①どんなお店にしたいのか②お互いに助け合うこと③自分自身を見つめながら友だちのことも理解すること④自由な部分と決まりがあること⑤よりわかりやすい情報発信や価値判断力の大切さ等にほんの少しでも気づく機会になればと考えるところです。

機会があれば、家庭でも買い物に連れて行ったりする中で、日常の営みについて体感させることも必要かもしれませんね。ほんの一部として、ゆりストアも実施しているんですね。

一度で身に付くとは思いませんが、機会あるごとに何かをつかんでほしいと願うところです。

これ
いいなあ！



二面性と子ども理解

人間は時として、「ここでごまかせば、うまくいくぞ」とか「自分がしたけど、怒られるから黙っておこう」といったような行動を選択することがあります。その同じ人間が、「高齢者だから席を譲ろうかな」とか「独りぼっちだったA君と遊んであげよう」ともします。

そうです。人間には二面性が存在するのです。『獣性』と呼ばれる、利己的で、陰湿で、醜い心を秘めた人間と、清らかで崇高な心の『神性』を内包した人間と。このような自分を客観的に理解し、いざというとき、人として正しい判断と行動が取れるように内面から覚醒させるための時間が「道徳」の時間なんですね。幼稚園では、特に道徳の時間が設定してある訳ではありません。その基礎となる非認知力は、普段の遊びの中で培われていきます。

このようなことから、子ども理解（つまりは人間理解）の第一歩は、子どもは嘘をつくものである。だけど、”子どもは誠実でありたい、よりよい自分になりたいものである”という二面性をもつことを分かってあげることだと思えます。

であるならば、もし我が子が嘘をついたとしても、「嘘をつかざるを得ない状況に追い込まれたのだろう。その背景をきちんと理解してあげよう。」「どのようにすれば本来の人間らしい行動が取れたのか、一緒に考えましょう。その上で、やっぱり、嘘って、自分の気持ちが晴れない。すっきりなれる行動って素晴らしいことだと教え諭そう」といった対応が生まれます。

私たちはどんなに頑張っても、誰一人として、神様になることはできません。ですが、『努めて獣性に打ち勝って、限りなく神性に近づきたい』と、心から希求し、努力することは誰でもできます。

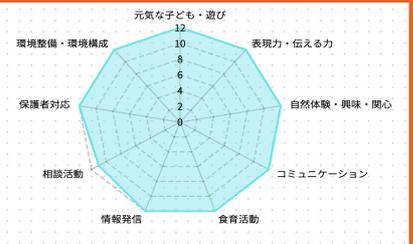
子どもたちも、子どもたちなりに、（発達段階に応じ）人間としての望ましい生き方・在り方を真剣に模索し、葛藤しているのです。そのような点からも、何とも愛おしい存在じゃありませんか！

鬼は～そと！
福は～うち！

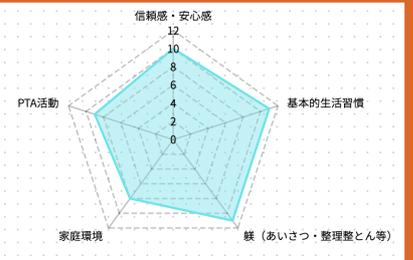


逃げ惑う可愛い鬼さん

教育活動を振り返って



家庭教育を振り返って



教育活動については、いただきました評価に満足することなく、子どもたちのために、更に保育の室の向上を目指して努力していきたいと考えます。また、それぞれ各ご家庭でも子どもの教育について、取り組んでいただいているところですが、今後さらに各家庭と連携を密にして、子どもの成長のための子育て支援を、充実させていきたいと考えます。お気軽にご相談ください。今後ともご支援・ご協力をよろしくお願い致します。



家庭教育学級

人権教育と閉級式

今年度もあっという間に閉級式を迎えました。命を守る人権教育について改めて認識を深めることができました。来年度も楽しい情報交換の場として作り上げていきましょう。